



乳幼児ママ・プレママ (第一子妊娠中、または末子年齢が2歳未満) の 備蓄・防災に関するアンケート調査2020

調査結果

【 調査概要 】

調査時期 : 2020年7月22日～7月24日

調査手法 : インターネットアンケート調査

調査対象者条件 : 以下の2つを満たすこと

①20代から40代の女性

②日本全国在住の第一子妊娠中、または末子年齢が2歳未満

有効回答数 : 「第一子妊娠中の女性」「末子年齢が1歳未満の女性」

「末子年齢が1歳以上2歳未満の女性」各155名ずつの計465名

【 目次 】

1. 乳幼児ママ・プレママが抱える災害への不安
 - ・避難所へ行くことへの不安
 - ・授乳についての不安
 - ・乳幼児用品の備蓄についての不安
2. 備蓄意識の変化
 - ・1年前と比較した意識の変化
 - ・新型コロナウイルス感染拡大による意識の変化
3. 日用品および乳幼児用品の備蓄実態
 - ・日用品の備蓄実態
 - ・備蓄量の充足度
 - ・乳幼児用品の備蓄実態、および今後の備蓄意向
 - ・【プレママ】今後備蓄したい乳幼児用品
4. 液体ミルクについて
 - ・液体ミルクの認知度・購入経験、使用したい場面
 - ・液体ミルクの備蓄実態
 - ・災害備蓄用の液体ミルクに求めること

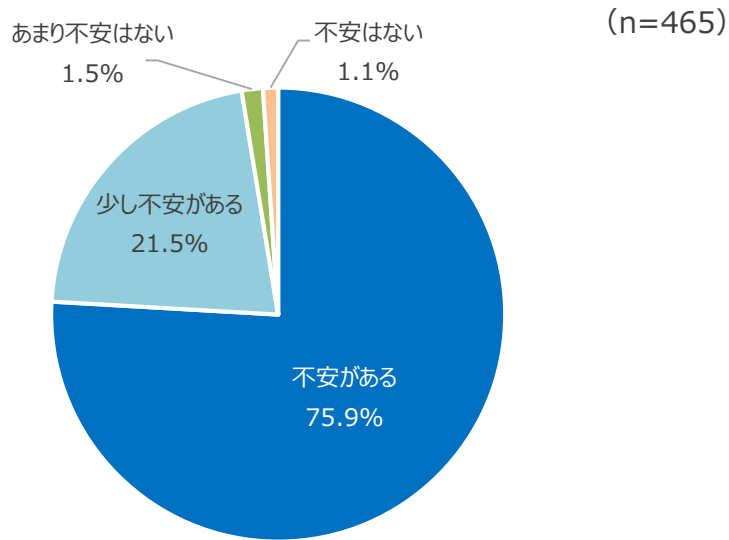
【 調査結果詳細 】

1. 乳幼児ママ・プレママ が抱える、災害への不安

「避難所への避難」「災害時の授乳」「乳幼児用品の備蓄」という3つの観点から、災害への不安について聞きました。その結果、ほとんどの乳幼児ママ・プレママが避難所生活や災害時の授乳について不安を抱えていました。赤ちゃん連れでの被災生活には大きな困難がたくさんあるようです。

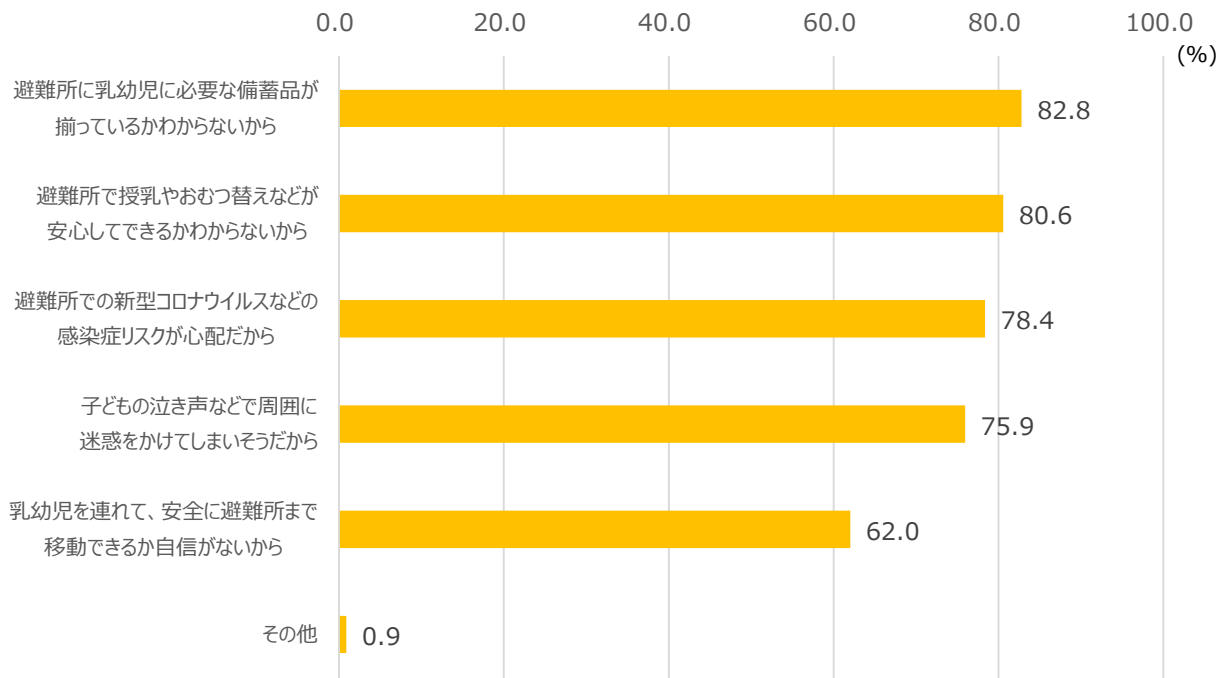
◆避難所へ行くことへの不安

<図1> 乳幼児を連れて避難所へ行くことへの不安



<図2> 不安に思う理由

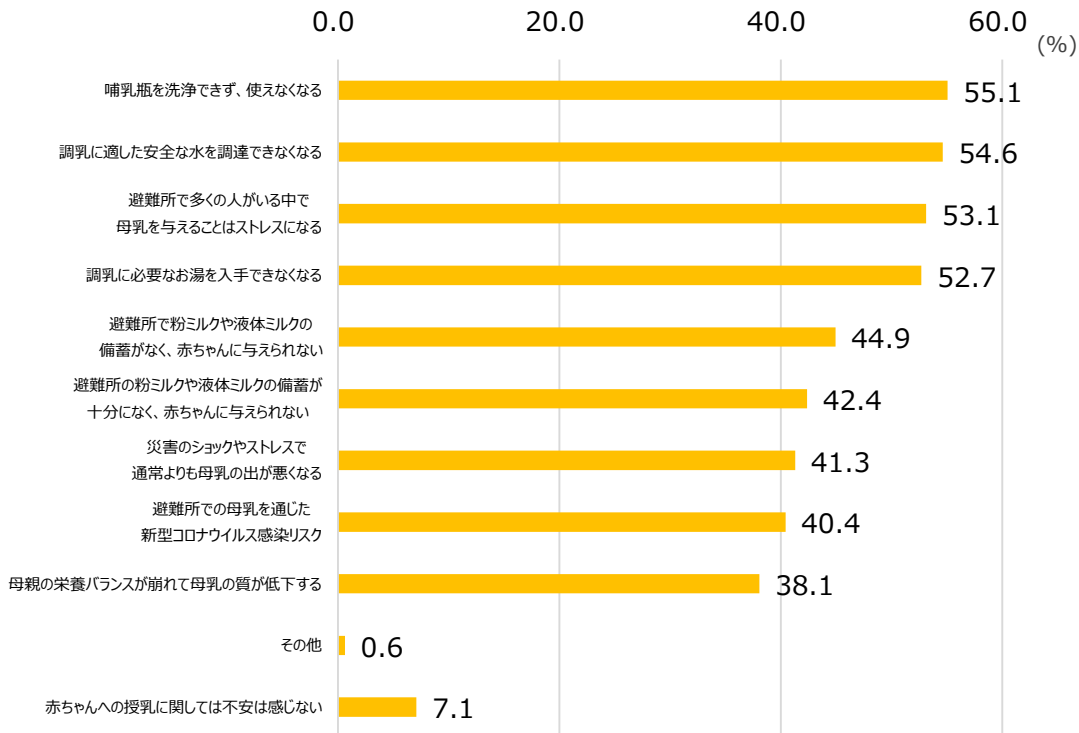
(複数回答、n=453)



◆ 授乳についての不安

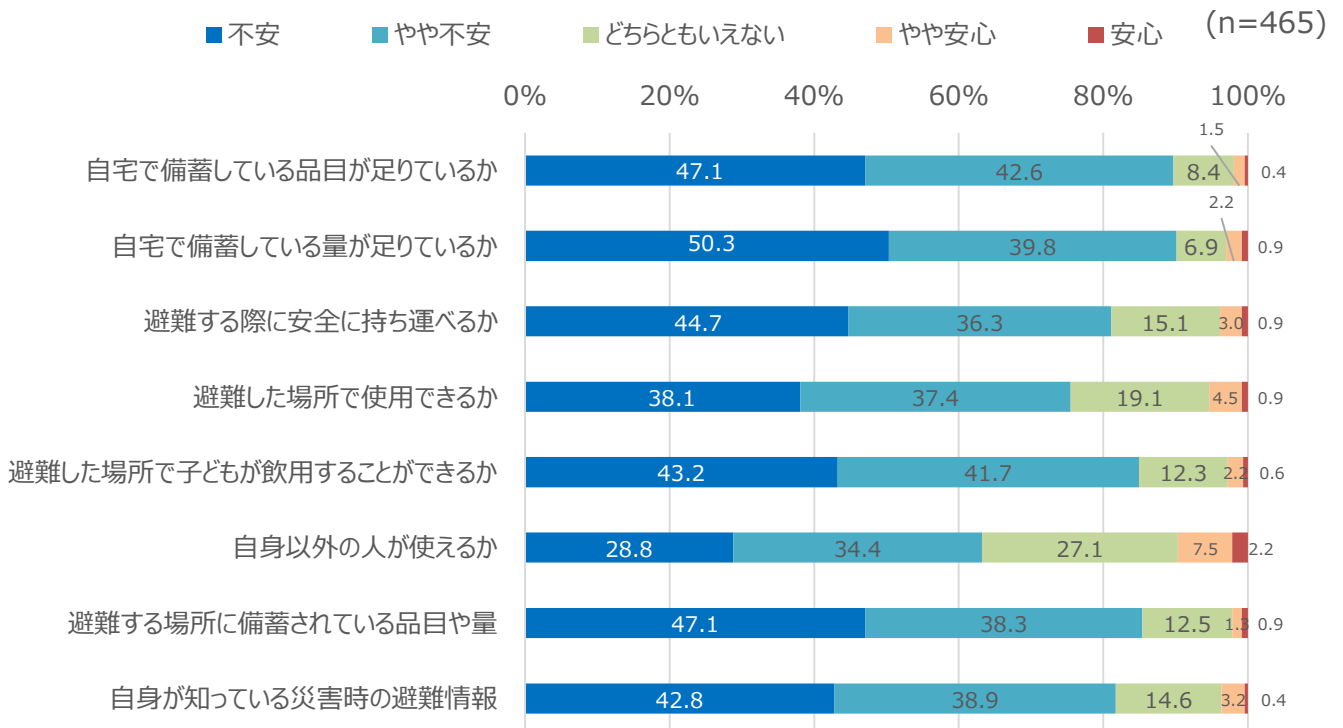
母乳やミルクは、赤ちゃんにとっては唯一の栄養源です。災害時における授乳については、「哺乳瓶の消毒ができるか」「調乳に必要な水やお湯が確保できるか」といった調乳に対する不安が多く見られました。

＜図3＞ 災害時における授乳についての不安 (複数回答、n=465)



◆ 乳幼児用品の備蓄についての不安

＜図4＞ 災害時を想定した乳幼児用品の備蓄・使用についての不安度



2. 備蓄意識の変化

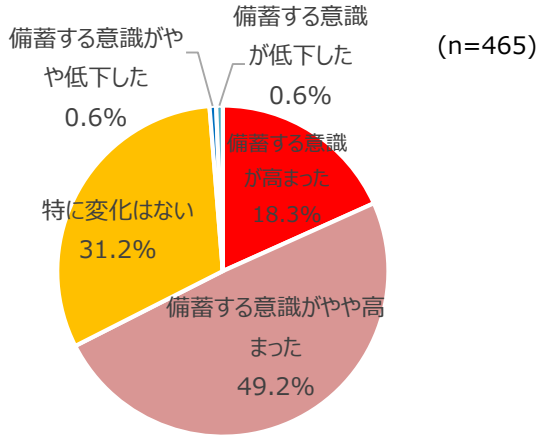
昨年10月の台風（令和元年房総半島台風、令和元年東日本台風）や、記憶に新しい令和2年7月豪雨、そして新型コロナウイルス感染拡大と、この1年だけでも日本は多くの災害に見舞われました。

1年前との比較、また新型コロナウイルス感染拡大の影響で自身の備蓄意識に変化があったかどうかを聞きました。

◆ 1年前と比較した意識の変化

備蓄する意識が「高まった」「やや高まった」と67.5%が回答。具体的にといった行動としては、備蓄する品目を増やしたという回答が上位にある一方で、20.4%の人が特に何もしていないと回答しました。

<図5> 1年前と比較した備蓄意識の変化



◆ 具体的にといった行動（抜粋）

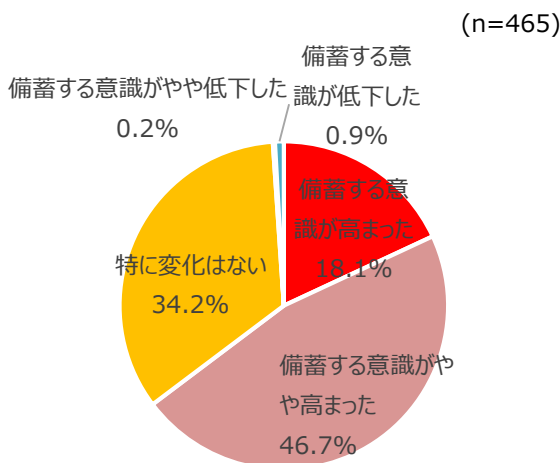
1年前と比較し備蓄意識が高まった/やや高まったと回答した314名（複数回答）

- 備蓄する品目を増やした（33.4%）
- 備蓄する量を増やした（32.5%）
- 災害時の備蓄品についての情報を調べた（32.2%）
- 特に何もしていない（20.4%）

◆ 新型コロナウイルス感染拡大による意識の変化

新型コロナウイルス感染拡大により、備蓄する意識が「高まった」「やや高まった」と64.8%が回答。具体的にといった行動としては、感染対策品を備蓄した、外出しないで済むように以前より多めに買うようになった、などが挙げられました。新型コロナウイルス感染症が全国的に流行し、多くの人が災害を自分ごととして捉えた結果かもしれません。

<図6> 新型コロナウイルス感染拡大による備蓄意識の変化



◆ 具体的にといった行動（抜粋）

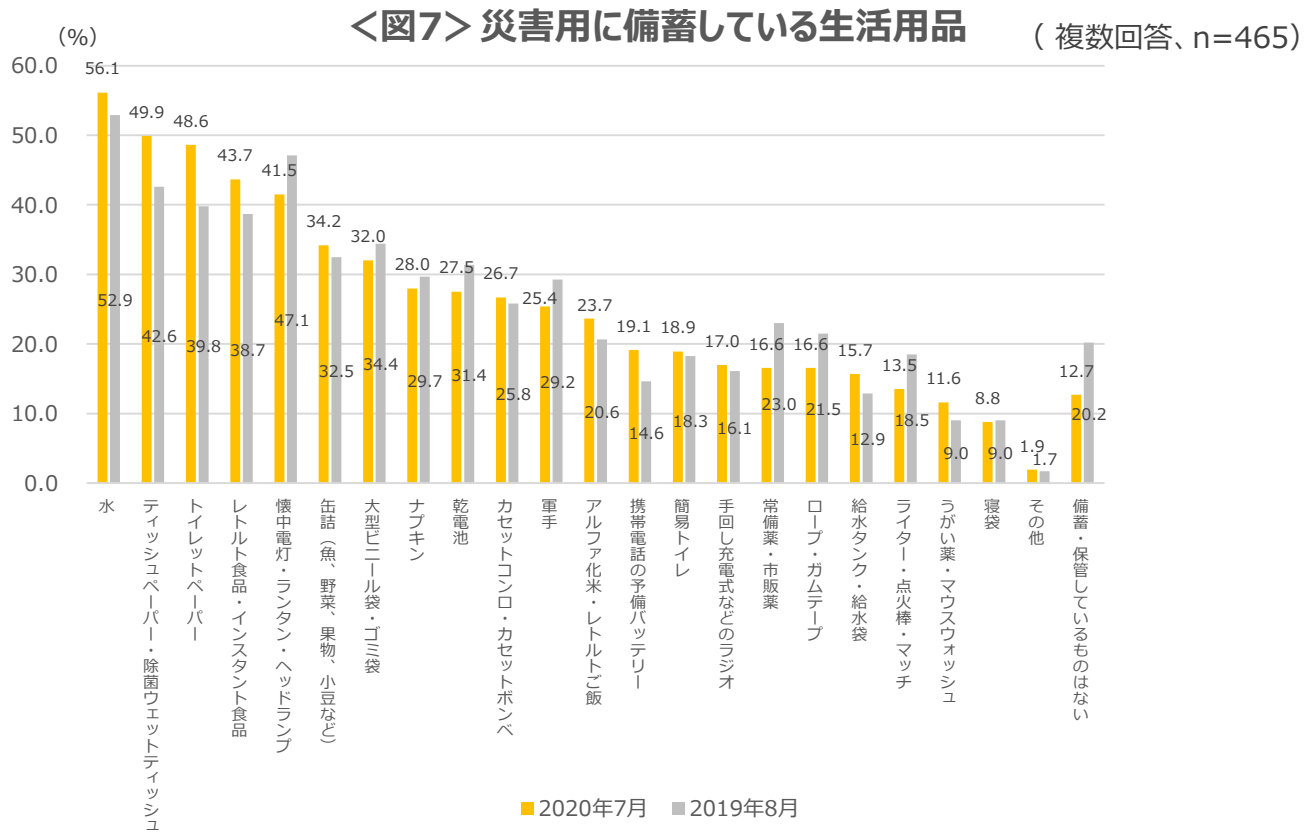
新型コロナウイルス感染拡大により、備蓄意識が高まった/やや高まったと回答した301名（複数回答）

- マスクや消毒液など感染対策品を、備蓄品に追加した（66.8%）
- できるだけ外出しないで済むように、以前より多めに買うようになった（65.1%）
- 長期保存できるタイプや賞味期限が長いものを多く買うようになった（44.9%）

3. 日用品および乳幼児用品の備蓄実態

◆ 日用品の備蓄実態

2019年度に行った調査結果と比較すると、2020年度調査では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大初期に買い占めが目立ったティッシュペーパー・除菌ウェットティッシュ、トイレトペーパーを備蓄している割合がアップしました。

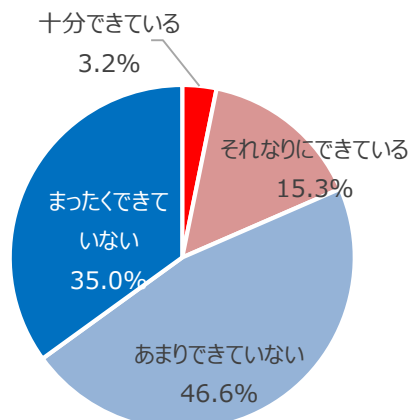


◆ 備蓄量の充足度

一般的には、災害時の備蓄には最低でも「3日分×家族の人数」が必要と言われています。これは、3日間（72時間）が人命救助のリミットであり、救援体制が人命救助優先となるため、その期間を自力で乗り切るために必要な備蓄量として勧められているからです。この3日分の備蓄ができているかについて聞いたところ、全体では「あまりできていない」「まったくできていない」を合わせると81.6%が3日分の備蓄に足りていないと回答しました。

※「自宅に備蓄・保管しているものはない」と回答した人は質問対象外

＜図8＞ 3日分の備蓄ができているか (n=406)

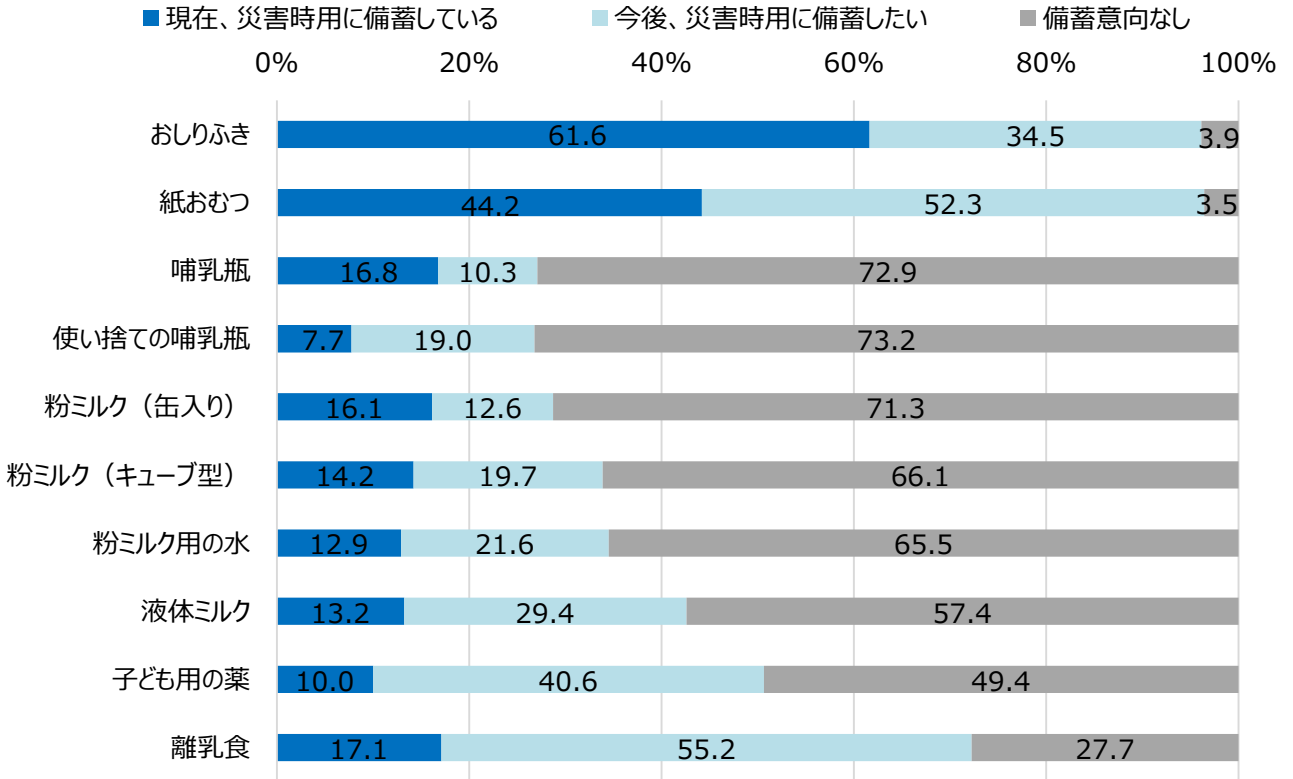


◆ 乳幼児用品の備蓄実態、および今後の備蓄意向

末子0～2歳未満の子どもを持つママに、「保管・備蓄している乳幼児用品」および「現在は備蓄していないが、今後備蓄したい乳幼児用品」を聞きました。おしりふき、紙おむつなどは、約半数の家庭で災害を意識した備蓄ができていますが、赤ちゃんの栄養源である液体ミルクや粉ミルク、離乳食について見てみると、低い値となりました。

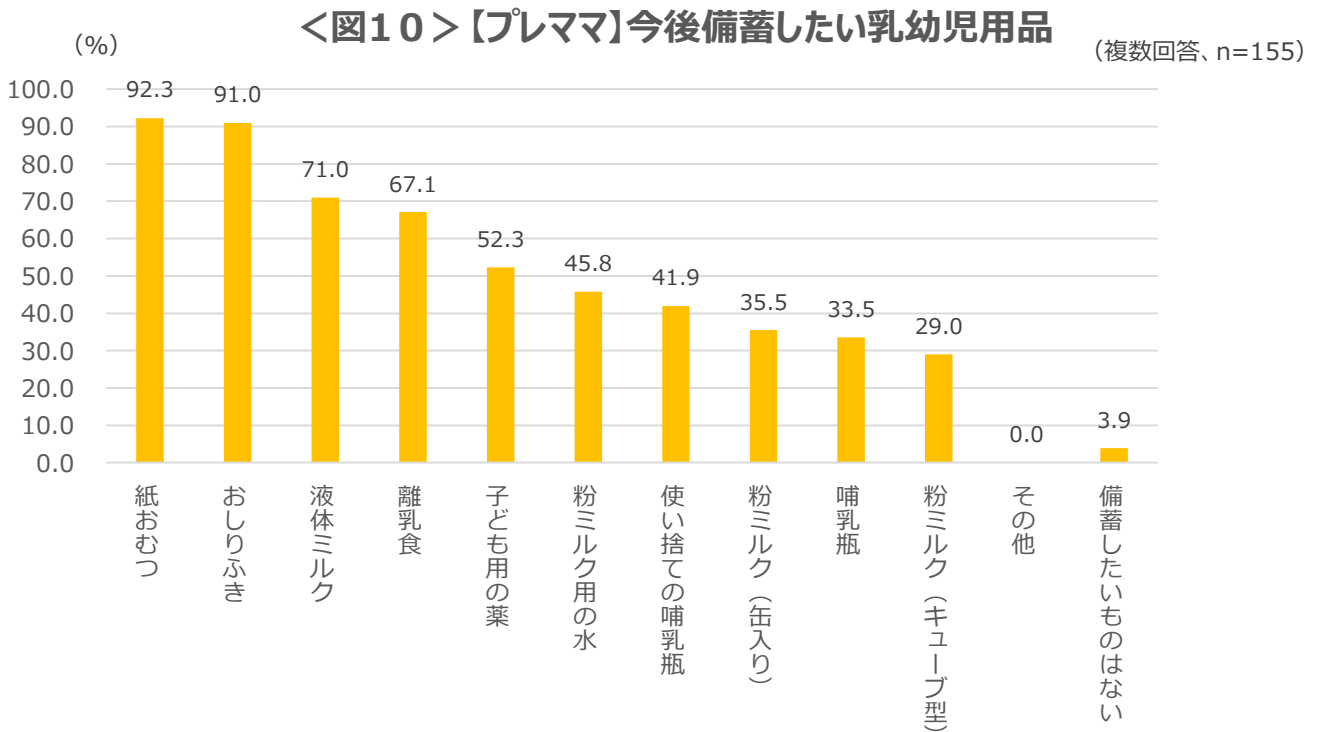
＜図9＞ 乳幼児用品の備蓄意向

(n=310)



◆【プレママ】 今後備蓄したい乳幼児用品

プレママに「今後備蓄したい乳幼児用品」を聞きました。必需品である「紙おむつ」(92.3%)、「おしりふき」(91.0%)に加え、赤ちゃんの栄養源として「液体ミルク」(71.0%)、「離乳食」(67.1%)も上位に挙がりました。



＜ご参考＞ 液体ミルクを備蓄している自治体、12.3%にとどまる

2020年1月から2月かけて一般財団法人 日本気象協会と株式会社 明治が全国1,788の自治体に向け実施した「災害時における授乳環境の整備、および乳児用液体ミルクなどの備蓄状況に関する実態調査」では、「乳幼児・妊産婦等の要援護者を優先して受け入れる避難所」を設置している自治体は32.8%、液体ミルクを購入して備蓄している自治体は全体の12.3%にとどまっています。現在、自治体が行なっている乳幼児のいる親や妊婦を対象にした防災・災害対策の取り組みで最も多いのは「災害用備蓄の啓発」であり、各家庭での備えが求められています。

調査概要：

https://www.meiji.co.jp/baby/milk-stock/assets/img/report/pdf/20200304_02.pdf

調査結果詳細：

https://www.meiji.co.jp/baby/milk-stock/assets/img/report/pdf/20200304_01.pdf

4.液体ミルクについて

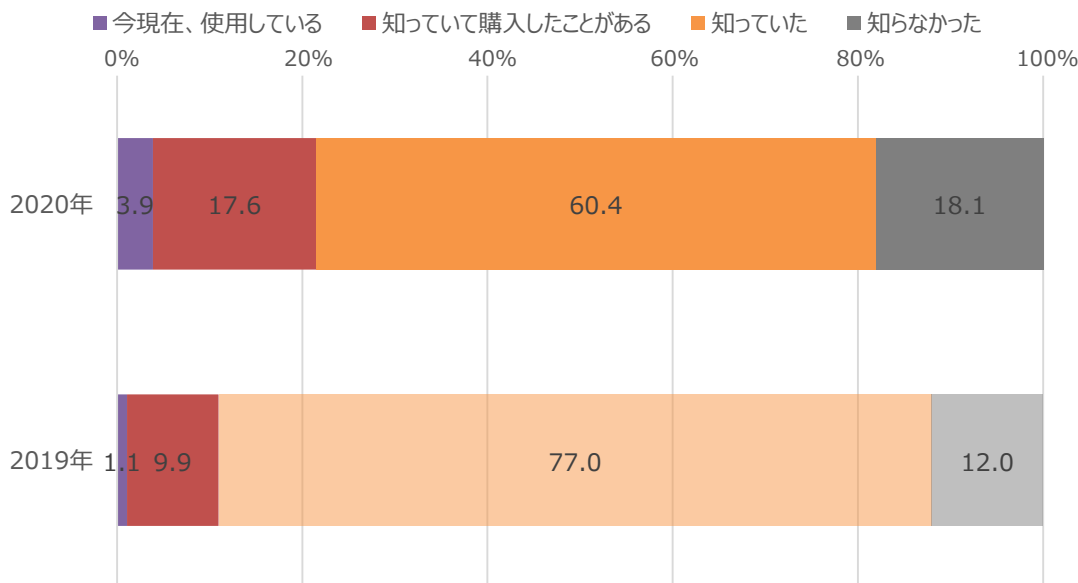
2019年3月から発売された液体ミルク（乳児用調製液状乳）は、調乳用のきれいな水やお湯がなくても授乳できることから、昨年の台風や今年の豪雨でも、断水や停電が起きた地域においてその利便性が評価され、多くの機会
で活用されました。液体ミルクの認知度・購入経験率や使用したい場面、備蓄実態などについてまとめました。

◆ 液体ミルクの認知度・購入経験率

「液体ミルク」の認知度は全体で81.9%でした。購入経験率は、21.5%と発売後半年ほどだった昨年（11.0%）のほぼ2倍になりました。

＜図11＞ 液体ミルクの認知度・購入経験率

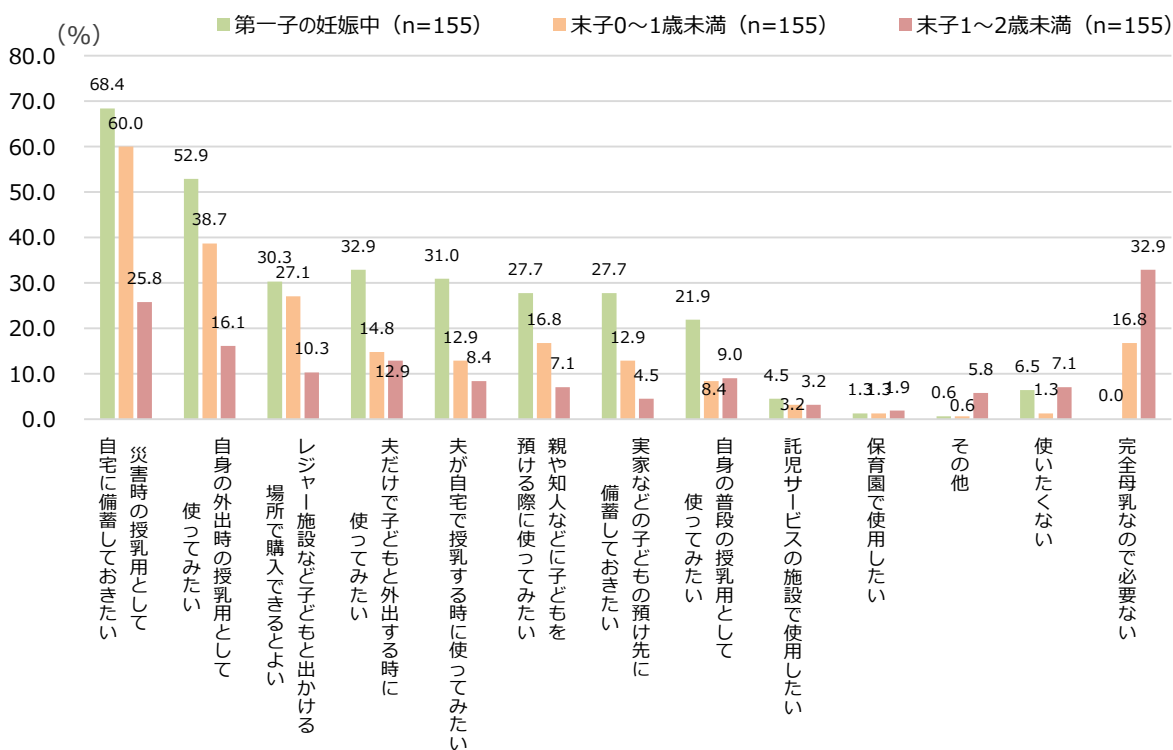
(n=465)



◆ 液体ミルクを使用したい場面

＜図12＞ 「液体ミルク」を使用したい場面

※複数回答

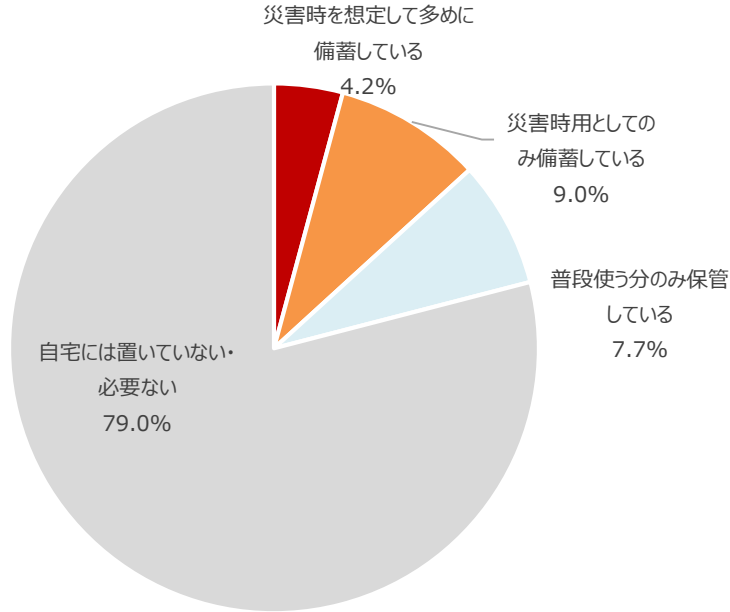


◆液体ミルクの備蓄実態

液体ミルクの備蓄実態を調査しました。末子0~2歳未満の子どもがいる家庭のうち、災害時を意識して液体ミルクを備蓄している家庭は13.2%と低い値になりました。

＜図13＞ 液体ミルクの備蓄実態

(n=310)



◆ 災害備蓄用の液体ミルクに求めること

災害備蓄用の液体ミルクに求めることとしては、「保存期間が長いもの」が75.9%で圧倒的に多い事がわかりました。非常食や備蓄用の水などの防災用食品は、賞味期限が数年単位のものが多いですが、乳児用ミルクの賞味期限は液体ミルクで半年~1年、粉ミルクでも1年半ほどと、比較的短期間です。その中でも、長期間保存できるものが選ばれているようです。

＜図14＞ 液体ミルクの希望タイプ^o

(複数回答、n=465)

